



# report

Tokyo Performing Arts Market 2005  
International Showcase 2005

report

東京芸術見本市2005 / インターナショナル・ショーケース 2005 - 報告書

The 10th  
Tokyo Performing Arts Market 2005  
東京芸術見本市2005  
September 12 (Thu) - 15 (Thu)

The 10th  
Tokyo Performing Arts Market 2005  
東京芸術見本市2005

hall B5 (1)



# Tokyo Performing Arts Market 2005 International Showcase 2005

# Report

東京芸術見本市2005  
インターナショナル・ショーケース2005 - 報告書

総括	2
1. 開催概要	3
2. 海外参加者一覧	4
3. 参加者内訳	9
4. ブース・プレゼンテーション	10
5. インターナショナル・ショーケース2005	12
6. セミナー	17
7. CD・DVD試聴コーナー／ランチ・ミーティング	25
8. TPAMフリンジ	26
9. 提携事業	27
10. 提携公演	27
11. パブリシティの記録	28
12. 掲載記事より(抜粋)	30

## 総括

東京芸術見本市(英語名:Tokyo Performing Arts Market 略称:TPAM=ティー・パム)は、1995年に設立され、演劇、ダンス、音楽、マルチメディア、その他の舞台芸術の流通を活躍にすることを目的とし、名称新たにして今回で10回目を迎えた(インターナショナル・ショーケースとの併設開催は第3回目となる)。

東京国際フォーラム/丸ビルホール/国際交流基金フォーラムにて4日間行われた本催事は、ブース展示、セミナー、交流会と、インターナショナル・ショーケースにより構成され、東京という地の個性を生かして特に先端の舞台芸術を紹介している希有な舞台芸術のマーケットのひとつとして国内各地をはじめ海外の関係者からも注目を集めている。来場者は4日間延べ2,900名が来場、海外からは30カ国より約100名が参加した。

今回特に留意した点は1)開かれたプログラム構成 2)新たな国内プレゼンターの開拓とその交流 3)海外ネットワークの強化 4)音楽プログラムの充実、の4点である。

1)については、ブース会場にミーティングエリアを設けたほか、出展者及びビジターがそれぞれの立場における問題を分かち合い共通の視点を持つ機会となるようプログラムの重複を避け、すべてのプログラム参加が可能になる企画とした。また、プログラムに親しみを持ってもらうために、ウェブサイトやフライヤー、当日配布プログラムなどのデザインを一新した。2)については、近年新たな舞台芸術発信の場としてその活用が注目されている公共美術館の学芸員や次世代の連携が期待される公共ホールの担当者を招聘しセミナーを開催。新たな視点から国内の舞台芸術ネットワーク構築の小さな一歩を踏み出した。3)についてはショーケースの双方向的な実施や、ブース数の増加などこれまでの海外の舞台芸術見本市のネットワークを強化するとともに、新たにイギリス、韓国、スペインの関係者との協力体制を構築した。4)については特にインターナショナル・ショーケースにおいて、併設開催後初めて音楽プログラムを充実。多くの参加者が本催事を通して、新たな公演が決まるなど具体的な成果を上げることができた。

舞台作品を作るアーティストが製造者、観客が消費者とするとその流通者にあたる「プレゼンター」に向けて開催しているのがこの「東京芸術見本市」である。初回から10年を経、舞台芸術を取り巻く環境は大きく変わったが、プレゼンターという概念そのものが日本ではまだまだ希薄と思われる。一方世界に目を向けると、2005年にはソウルにも見本市が創設されアジア地域だけでも実に6カ国以上で見本市が開催されるようになった。これは、舞台芸術見本市の有用性が認められてきた証でもある。

2006度から、東京の公演が集中する3月にその会期を移すこととなった。これは国内外の参加者が本催時を通してより多くの情報を得、より有用な交流ができるよう目指すものである。今後、抱える課題をひとつひとつ整理し、より多くの関係団体/者の協力を仰いで本催事をより充実させていきたい。

東京芸術見本市事務局

## 1. 開催概要

会 期：2005年9月12日[月]～15日[木]

会 場：東京国際フォーラム/丸ビルホール/国際交流基金フォーラム

主 催：東京芸術見本市2005実行委員会

構成団体：国際交流基金

財団法人地域創造

特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター

インターナショナル・ショーケース2005(平成17年度 文化庁国際芸術交流支援事業)

特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター

後 援：総務省/外務省/経済産業省/文化庁/東京都/社団法人全国公立文化施設協会

特別協力：東京国際フォーラム/丸ビル

協 力：財団法人大阪21世紀協会/有限会社邦楽ジャーナル/財団法人日本伝統文化振興財団

プリティッシュ・カウンシル/カナダ大使館/スペイン大使館

機材協力：日本ビクター株式会社

飲料提供：アサヒビール株式会社

宣伝協力：株式会社ポスターハリス・カンパニー

併設事業：財団法人地域創造・社団法人全国公立文化施設協会共催シンポジウム

国際交流基金グループ招聘事業

提携事業：日本の音フェスティバル2005 in 会津

第3回アジア・ヨーロッパダンス・フォーラム—pointe to point

(国際交流基金フォーラム)

提携公演：ニセS高原から(こまばアゴラ劇場)

ブース・プレゼンテーション参加団体	51団体
	57ブース
TPAMフリンジ参加団体	5団体
セミナー	10企画
ショーケース	10企画
ビジター参加者数	280名
4日間参加者	
国内参加者	111名
海外参加者	31名
国内招待者	97名
海外招待者	41名
1日参加者	
12日 41名	参加可能者数 321名
13日 91名	参加可能者数 412名
14日 139名	参加可能者数 551名
15日 108名	参加可能者数 659名
4日間ビジター参加者 延べ数	1,943名

## 2. 海外参加者一覧

(30カ国100名が海外より参加)

### 【Australia/オーストラリア】

Oren Ambarchi オレン・アンバーチ [What is Music? Festival Sound artist, Co-Director  
ワットイズミュージック? フェスティバル サウンド・アーティスト/共同ディレクター]  
Daryl Buckley ダリル・バックリー [ELISION Ensemble Artistic Director  
エリシオン・アンサンブル アーティスティック・ディレクター]  
Rosemary Hinde ローズマリー・ハインデ [Hirano Productions Producer ヒラノ・プロダクション プロデューサー]  
Sue Spence スー・スペンス [Australia Council for the Arts Project Coordinator - International  
オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ プロジェクトコーディネーター]

### 【Belgium/ベルギー】

Jacob Sejersgaard ヤーコブ・セイェルスガード [Dancer ダンサー]

### 【Cambodia/カンボジア】

Chankethya Chey チャンケチャ・チャイ [Sovanna Phum Dancer ソバナナム ダンサー]

### 【Canada/カナダ】

Elisabeth Comtois エリザベス・コントワ [Agence Station bleue Agent アジャンス・ステーション・ブルー エージェント]  
Gilles Dore ジル・ドレ [Theatre Sans Fil Director of administration  
シアター・サン・フィル アドミニストレーション・ディレクター]  
Louise Dubeau ルイーズ・ドゥボー [Diagramme Gestion culturelle Coordinator, Development and Touring Section  
ディアグラム・ジェスチョン・キュルチュール コーディネーター]  
Marie-Catherine LaPointe マリー・カトリーヌ・ラポントゥ [Boulevard - Artists Management President  
ブルバール・アーティスト・マネージメント 代表]

Uriel Georges Luft ユリエル・ルフト [Atmo Productions Inc. President アトモ・プロダクション 代表]

Ravi Nairmpally ラビ・ナインパリー [Tasa Band Leader タサ バンド・リーダー]

Alain Pare アラン・パレ [CINARS CEO シナールズ 代表]

Hugo Rampen ユゴー・ランパン [Amok Artist Agency Inc. Agent  
アモック・アーティスト・エージェンシー エージェント]

Jeremy Riggsby ジェレミー・リグスピー [Images Festival Artistic Director  
イメージ・フェスティバル アーティスティック・ディレクター]

Paul Tanguay ポール・タンゲ [Compagnie Marie Chouinard Executive Director  
カンパニー・マリー・シュイナル エグゼクティブ・ディレクター]

### 【Chile/チリ】

Claudio Omar Rodriguez Espinoza クラウディオ・オマール・ロドリゲス・エスピノーサ

[Actor/Director 俳優・劇場ディレクター]

### 【China/中国】

Wa Fun, Erik Kuong ワ・フン・エリック・クワン [Macao Cultural Center Development and Research  
マカオ・カルチュラル・センター ディベロップメント・アンド・リサーチ]

Loheng Lei ローヘン・レイ [Macao Cultural Center Program Officer  
マカオ・カルチュラル・センター プログラムオフィサー]

Yuanyuan Wang ユアンユアン・ワン [National Ballet of China Choreographer 中国国立バレエ 振付家]

Nelma Wong Morais Alves ネルマ・ウォン・モライス・アルベス [Macao Cultural Centre Director  
マカオ・カルチュラル・センター ディレクター]

### 【Czech Republic/チェコ】

Daniela Klivarova ダニエラ・クリヴァロヴァ  
[Music Faculty of the Academy of Performing Arts Prague / Dance Department Student for degree PhD. (contemporary dance)  
アカデミー・オブ・パフォーミング・アーツ・プラハ 学生]

### 【Estonia/エストニア】

Kulli Roosna クッリ・ルースナ [Fine Five Dance Theatre Student/dancer/ choreographer  
ファイン・ファイブ・ダンス・シアター 学生/ダンサー/振付家]

### 【Finland/フィンランド】

Pirjetta Mulari ビエルエッタ・ムマリ [Finnish Dance Information Centre Project Manager - International Affairs  
フィンニッシュ・ダンス・インフォメーション・センター プロジェクト・マネージャー]

Sari Palmgren サリ・パルムグレン [Dancer ダンサー]

Ari Tenhula アリ・テンフーラ [Journalist ジャーナリスト]

### 【France/フランス】

Celine Debyser セリーヌ・デビゼ [Cie Vilcanota Contemporary Dancer シ・ビルカノータ コンテンポラリー・ダンサー]

### 【Germany/ドイツ】

Christoph Borkowsky Akbar クリストフ・アクバー [WOMEX Director ウォーメックス ディレクター]

Burkhard Hennen ブルクハルト・ヘネン [Moers Music Artistic Director  
メルス・ミュージック アーティスティック・ディレクター]

Wilfried Kosiol ヴィルフリート・コシオル [Moers Music Artistic Advisor  
メルス・ミュージック アーティスティック・アドバイザー]

Michael Reitz ミカエル・ライツ [Artist アーティスト]

Ruthe Zuntz ルート・ツントツ [Artist アーティスト]

### 【Greece/ギリシャ】

Christina Polychroniadou クリスティーナ・ポリクロニアドウ [Full House Promotion Arts Manager and Dance Writer  
フルハウス・プロモーション アーツマネージャー/ダンスライター]

Ioanna Toumpakari イオナ・トウムバカリ [Dancer ダンサー]

### 【Hungary/ハンガリー】

Rita Bata リタ・バタ [Co. batarita Choreographer バタリータ 振付家]

Jozsef Kardos ヨーゼフ・カルドス [Sziget Cultural Management Program Director  
シゲット・カルチュラル・マネージメント プログラムディレクター]

### 【Indonesia/インドネシア】

Dwiki Dharmawan ドウィッキ・ダルマワン [Music Committee at the Jakarta Arts Council Member  
ジャカルタ・アーツカウンシル メンバー]

I Gusti Kompiang Raka イ・グスティ・コンピアン・ラカ [Jakarta Performing Arts Theater Manager  
ジャカルタ・パフォーミング・アーツ・シアター マネージャー]

Gaura Mancacarit Adipura ガウラ・マンカカリタディプーラ [SEKAR BUDAYA NUSANTARA Advisor  
セカール・ブダヤ・ヌサンタラ アドバイザー]

Tonny Prabowo トニー・ブラボウォ [New Jakarta Ensemble Founder ニュージャカルタ・アンサンブル 設立者]

Bianca Pulungan ビアンカ・プルンガン [Dancer ダンサー]

Sapto Raharjo サプト・ラハルジョ [The Association of Indonesian Composers Member  
インドネシア作曲家協会 メンバー]

Tupuk Sutrisno, SH. トップク・ストゥリスノ [SEKAR BUDAYA NUSANTARA Head of International Relations  
セカール・ブダヤ・ヌサンタラ インターナショナル・リレーションズ・代表]

[Italy/イタリア]

Adelina La Scaleaia アデリーナ・ラ・スカレイア [4th Skin フォース・スキン]

[Korea/韓国]

Seok Kyu Choi ソクキュー・チョイ [Chuncheon International Mime Festival Deputy Artistic Director  
チュンチョン・インターナショナル・マイム・フェスティバル 副アーティストディレクター]

Young-ho Joo ヤンホー・ジュ [Performing Arts Market in Seoul Coordinator  
ソウル舞台芸術見本市 コーディネーター]

Jai Jin Jung ジャイジン・ジュン [Seoul Theater Association Executive Director/Actor  
ソウルシアター・アソシエーション エグゼクティブ・ディレクター/俳優]

Dae Gum Kang デグム・カン [Ministry of Culture & Tourism Korea Arts Promotion, Arts Bureau  
韓国文化観光省 アーツプロモーション]

Suk-heung Kang スヘウン・カン [Performing Arts Market in Seoul Chairman ソウル舞台芸術見本市 代表]

Chul Lee Kim チュルリー・キム [Suwon Hwaseong Theatre Festival Artistic Director  
スウォン演劇祭 アーティストディレクター]

Eui Joon Kim ユージョン・キム [LG Arts Center CEO LGアーツセンター 代表]

Jeonghee Kim ジョンヒー・キム [Performing Arts Market in Seoul Executive Director  
ソウル舞台芸術見本市 エグゼクティブ・ディレクター]

Joon Hee Kim ジョンヒー・キム [Cultural Foundation of National Museum of Korea Programming Advisor  
韓国ナショナル・ミュージアム・カルチュラル・ファウンデーション プログラミング・アドバイザー]

So Yeon Kim ソーヤン・キム [Performing Arts Market in Seoul International Promotions Manager  
ソウル舞台芸術見本市 インターナショナル・プロモーション・マネージャー]

Tae Soo Kim タエソー・キム [Seoul Theater Association Executive Director  
ソウルシアター・アソシエーション エグゼクティブ・ディレクター]

Yong Kwan Kim ヨンクワン・キム [Mast Media Ltd. President/CEO マスト・メディア 代表]

Young Hwan Kim ヤンフワン・キム [Theater Company Bitá President/Director シアター・カンパニー・ビタ 代表]

Mi-Jin Ko ミジン・コー [Embassy of Canada in Korea Public & Cultural Affairs Officer  
在韓国カナダ大使館 広報文化担当官]

Go-Eun Kwak ゴーユン・クワク [Dancer-choreographer ダンサー/振付家]

Gyu Seog Lee ギュソク・リー [Seoul Fringe Festival General Director  
ソウル・フリンジ・フェスティバル ジェネラル・ディレクター]

HooNey Lee フーネイ・リー [Mezoo Music メゾー・ミュージック]

Misook Lee ミスク・リー [Seoul Arts Center ソウルアーツセンター  
Programming Manager プログラミング・ディレクター]

Young Woong Lim ヤンウォン・リム [The Academician of Korean National Academy of Art Director  
ナショナルアカデミー・オブ・アート ディレクター]

Christine Nakamura クリスティーン・ナカムラ [Canadian Embassy in Korea Counselor  
在韓国カナダ大使館 カウンセラー]

Se Ho Oh セホ・オー [Suwon Hwasong Fortress Theatre Festival Secretary  
スウォン演劇祭 セクレタリー]

In Gun Park イングン・パーク [Chungmu Art Hall CEO チュンム・アート・ホール 代表]

Jisun Park ジスン・パーク [Chuncheon International Mime Festival General Manager  
チュンチョン・インターナショナル・マイム・フェスティバル ジェネラル・マネージャー]

Jong Cheul Park チョン Chol パーク [Chungmu Art Hall Manager チュンム・アート・ホール マネージャー]

Yong Hoon Ryu ヨンホン・リュウ [Chungmu Art Hall Assistant チュンム・アート・ホール アシスタント]

Mijeong Sohn ミジョン・ソン [Seoul Arts Center Programming Manager  
ソウル・アーツセンター プログラミング・マネージャー]

Jiyun Wie ジユン・ウィー [Performing Arts Market in Seoul Programs / Communications Manager  
ソウル舞台芸術見本市 プログラム/コミュニケーションマネージャー]

Seong Sin Wi ソンシン・ウィー [Theater Company Oneul President/Director 劇団Oneul 代表]

[Lithuania/リトアニア]

Saulius Vaitekunas サウリウス・ヴァイテクナス [Makro Entertainment Agency Special Projects Consultant  
マクロエンターテインメントエージェンシー スペシャルプロジェクトコンサルタント]

[Mexico/メキシコ]

Cristina King Miranda クリスティーナ・キング・ミランダ

[Mexico: Gateway to the Americas Development and Special Projects

メキシコ:ゲートウェイ・トゥー・ジ・アメリカズ デベロップメント・アンド・スペシャルプロジェクト]

Rene Roquet レネ・ロケ [Mexico: Gateway to the Americas Coordinator, Arts Market

メキシコ:ゲートウェイ・トゥー・ジ・アメリカズ アーツマーケット・コーディネーター]

[Philippines/フィリピン]

Christine Maranan-Novales クリスティーン・マラン・ノヴァレス [Dancer ダンサー]

Donna Miranda ドナ・ミランダ [Dancer ダンサー]

[Portugal/ポルトガル]

Tania Carvalho タニア・カルヴァーリオ [Bomba Suicida Coreographer ボムバ・スイシダ 振付家]

[Romania/ルーマニア]

Constantin Chiriac コンスタンティン・キリアック [Sibiu International Theatre Festival Director  
シビウ国際演劇フェスティバル ディレクター]

[Singapore/シンガポール]

Vernetta Joy Belarmino ヴェルネッタ・ベラルミーノ [Asia-Europe Foundation Project Executive  
アジア・ヨーロッパ・ファンデーション プロジェクト・エグゼクティブ]

Chulamane Chartsuwan チュラマニー・チャルツワン

[Asia-Europe Foundation Director for Cultural Exchange

アジア・ヨーロッパ・ファンデーション カルチュラル・エクスチェンジ・ディレクター]

[Slovakia/スロヴァキア]

Jana Znasikova ヤナ・ズナシコーヴァ [Media Artist メディアアーティスト]

[Spain/スペイン]

Sergio Caballero セルジオ・カバジェーロ [Sonar Music Co-Director / Owner ソナー・ミュージック 共同ディレクター]

Enric Palau エンリック・バラウ [Sonar Music Director / Owner ソナー・ミュージック ディレクター]

[Taiwan/台湾]

Tung Chien トゥン・チェン [National Chiang Kai-Shek Cultural Center,R.O.C. Project Assistant Manager  
ナショナル・チャンカイシェク・カルチュラル・センター プロジェクト・アシスタント・マネージャー]

Lee Hey-mei リー・ヘイメイ [National Chiang Kai-Shek Cultural Center,R.O.C. Manager  
ナショナル・チャンカイシェク・カルチュラル・センター マネージャー]

## 【Thailand/タイ】

Sirithorn Srichalakom シリトン・スリシャラコム [Chulalongkorn University / Patravadi Theatre, Bangkok,  
Thailand Dancer/Choreographer チュラロンコン大学/パトラヴァディ・シアター ダンサー・振付家]

## 【The Netherlands/オランダ】

Malgorzata Anna Haduch マルゴルザタ・アナ・ハドフ [Dancer/Choreographer ダンサー・振付家]

## 【UK/英国】

Louise Chantal ルイズ・シャンタル [Assembly Theatre and Riverside Studios London Theatre Producer  
アッセンブリーシアター・リバーサイドスタジオ・ロンドン シアター・プロデューサー]

Carole McFadden キャロル・マクファアデン [British Council Projects Manager, Drama & Dance  
ブリティッシュカウンシル ドラマ・ダンス部門・プロジェクトマネージャー]

Paul Miskin ボール・ミスキン

[Neighbourhood Watch Stilts International Artistic Director Partner

ネイバーフッド・ウォッチ・スティルト・インターナショナル アーティスティック・ディレクター・パートナー]

Christopher Thomson クリストファー・トムソン [The Place Director of Learning and Access

ザ・プレイス ラーニング・アンド・アクセス・ディレクター]

## 【USA/アメリカ】

Lane Czaplinski レイン・ツァプリンスキー

[On The Boards/Behnke Center for Contemporary Performance Artistic Director

オン・ザ・ボード/ベンケセンター・フォー・コンテンポラリー・パフォーマンス アーティスティック・ディレクター]

Hank Knerr ハンク・クナー [Indiana University of Pennsylvania, USA Director of Public Events

ペンシルベニア・インディアナ大学 パブリックイベント・ディレクター]

Dean Magraw ディーン・マグロウ [Dean Magraw Artist ディーン・マグロウ アーティスト]

Kyoko Yoshida キョウコ・ヨシダ [U.S./Japan Cultural Trade Network, Arts Midwest Director

アーツ・ミッドウエスト 日米カルチュラル・トレード・ネットワーク ディレクター]

## 【Vietnam/ヴェトナム】

Phuc Dien Huynh フック・ディエン・フイン [Music Director ミュージックディレクター]

Tran Kien チャン・キエン [Ho-Chi-Minh Television Manager of Director and Cameraman Dept.

ホーチミン市テレビ局 撮影・監督課長]

Quang Vinh Nguyen クワン・ビン・グエン

[Theater of Vietnam Music Dance and Song Vice Director in charge of performances

シアター・オブ・ヴェトナム・ミュージック・ダンス・アンド・ソング 副ディレクター]

Van Thanh Ngo ヴァン・タイン・ゴー [Hanoi National Conservatory of Music Deputy Rector

ハノイ音楽院 副院長]

## 3. 参加者内訳

日 時	プログラム名	入場者数	会場
9月12日(月) 18:00-20:00	オープニング・ショーケース:「土の響き、地球の声」	345	丸ビルホール
9月13日(火) 10:00-11:30	映像ショーケース:「J」演劇とは何か	104	ホールD1
10:00-12:00	セミナー:舞台芸術のための著作権	62	G502
15:30-16:15	ショーケース:韓国(国策)の新しい4人を聴くーブリ	241	ホールB7-1
16:15-18:15	ショーケース:邦楽ニューウェーブ	234	ホールB7-2
19:15-21:15	ショーケース:New Sonic Performance	247	丸ビルホール
9月14日(水) 10:00-11:30	映像ショーケース:コドモ身体の逆襲	116	ホールD1
10:00-12:00	セミナー:2005! 公立文化施設はどう変わる!?	92	G502
10:00-11:30	セミナー:インドネシアの舞台芸術事情について	30	G508
15:30-16:15	ショーケース:カナダの音楽ショーケース-タサ	198	ホールB7-2
16:15-18:15	ショーケース:Take a chance project - コンテンポラリーダンスの現在	225	ホールB7-1
19:00-21:00	セミナー:地域の将来像を夢見る	68	G502
19:15-21:15	ショーケース:Altervision 05 - Avant Music Night	274	丸ビルホール
9月15日(木) 10:00-12:00	セミナー:劇場の持つ機能と役割	77	G502
10:00-11:30	セミナー:ベトナムの舞台芸術事情について	15	G508
11:00-12:00	セミナー:オーストラリアにおける現代音楽の最新トレンド	68	ホールD1
15:00-16:00	セミナー:英国ダンス最新事情	70	ホールD1
15:00-16:30	セミナー:美術館におけるパフォーマンスの可能性	96	G502
16:30-17:30	セミナー:バルセロナ ソナーフェスティバル	85	G502
17:30-19:30	クロージング・ショーケース:Different Music(s)/Tokyo Next Texture	244	ホールB7-1
4日間のべ人数		2891	

# Booth Presentation

## 4. ブース・プレゼンテーション

9月13日(火)13:00~15:30 / 14日(水)13:00~15:30 / 15日(木)13:00~15:00  
東京国際フォーラム ホールB5

国内外の劇団、アーティスト、制作団体やフェスティバル関係者など51団体(57ブース)がそれぞれのブースにて、来場者に資料やパソコンを用いてプレゼンテーションを行った。他のプログラムと重複しないようブース・プレゼンテーションの開場時間を調整した結果、多くの来場者が集中してブース会場にてコミュニケーションをとっていた。また、今回は、出展者と参加者がよりカジュアルに話ができるように、ブースエリアの真ん中にミーティング・エリアを設け、簡単なカフェスペースとして多くの来場者が利用した。



### 出展団体

(出展団体名がブース名と異なる場合はカッコ内に表記)

#### ダンス・パフォーマンス [6団体 / 7ブース]

1. afterimage
2. ART DANCE THEATER FUNCTION
3. ダンスカンパニーノマド〜S
4. flowers
5. KATHY
6. レニ・パッソ

#### 演劇 [4団体 / 4ブース]

1. 劇団解体社
2. オン・タイム(有限会社 オン・タイム)
3. 劇団スーパー・エキセントリックシアター
4. 糸あやつり人形結城座(結城座)

#### 音楽 [9団体 / 9ブース]

1. ARIGA 10 MUSIC
2. プライツワン(株式会社 プライツワン)
3. GLOBAL HOGAKU PROJECT
4. 邦楽無限響 津軽・琉球  
(有限会社 かふうエンタテインメント)
5. 有限会社 古典空間
6. オキナワノウタ(新舞台)
7. ピリカミュージック(株式会社 アレフ)
8. PURIゆうげい社(株式会社 ゆうげい社)
9. 株式会社ステーション

#### 複合ジャンル・その他 [9団体 / 9ブース]

1. 華のん企画
2. 京劇「好一ハオー」(株式会社 影向舎)
3. DANCE AND MEDIA JAPAN
4. ミホプロジェクト/モリユウギャラリー(ミホプロジェクト)
5. ミュージカルカンパニーイツフォーリーズ(オールスタッフ)
6. ネイバーフッド・ウォッチ・スティルツ・インターナショナル
7. OSAKA打打団 天鼓(有限会社 児雷也)
8. スカル・ブダヤ・ヌサンタラ
9. 「忠臣の義」(株式会社 影向舎)

#### フェスティバル・見本市 [5団体 / 6ブース]

1. シナール
2. 大道芸ワールドカップin 静岡  
(大道芸ワールドカップ実行委員会)
3. メキシコ:ゲートウェイ・トゥ・ジ・アメリカス
4. ソウル舞台芸術見本市-PAMS
5. 東京国際芸術祭(NPO法人アートネットワーク・ジャパン)

#### 劇場・ホール [3団体 / 3ブース]

1. こまばアゴラ劇場
2. 都城市総合文化ホール(財団法人 都城市文化振興財団)
3. 世田谷パブリックシアター(財団法人 せたがや文化財団)

#### 舞台芸術支援団体 [12団体 / 16ブース]

1. アジア欧州基金
2. オーストラリア・カウンスル・フォー・ジ・アーツ
3. プリティッシュ・カウンスル
4. CANADA ON TOUR
5. DDD(dancedancedance)  
(株式会社 フラックス・パブリッシング)
6. イスラエル大使館文化部(イスラエル大使館)
7. 株式会社インフォメーションクリエイティブ
8. 日本イベント業務管理者協会
9. ポスターハリス・カンパニー
10. QUEBEC ON STAGE
11. 財団法人ソニー音楽芸術振興会
12. 社団法人日本舞踊協会

#### 主催団体 [3団体 / 3ブース]

1. 国際交流基金
2. 財団法人地域創造
3. 特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター

# International Showcase

## 5. インターナショナル・ショーケース

インターナショナル・ショーケースは2003年の初回から、質の高いプログラムの実施とトータリティを持ったプログラムを実現するため、ディレクター制を導入している。今回は、過去取り上げることがなかった音楽プログラムを充実させ、国内外のプレゼンターの潜在的な需要に応えるとともに、音楽、ダンス、演劇の多彩な可能性を十二分に紹介したプログラムとなり、東京芸術見本市／インターナショナル・ショーケースを個性ある類例のない「見本市」と位置づけることを目指した。

### オープニング・ショーケース 土の響き、地球の声

9月12日(月)18:00~20:00 / 丸ビルホール ディレクター: 田村光男(音楽プロデューサー)  
 [出演] おおたか静流[唄] / 坂田 明[アルト・サクソフーン/クラリネット] / 吉野弘志[ウッドベース] / 松田博山[尺八]  
 木乃下真市[津軽三味線] / 唐橋良枝[フラメンコ] / アラヤヴィジャナ

アカベラ、津軽三味線、サクソフーン、ベース、尺八、そしてフラメンコの踊りによる、オープニングセレモニー・ショーケース。東京芸術見本市2005の提携事業で、会津若松にて開かれた「日本の音フェスティバル」で酒蔵を会場として開催されたコンサートを、東京芸術見本市では劇場空間における新たなバージョンとして展開。邦楽からフラメンコまで、国境を越え、ジャンルを越えた芸術のコラボレーションの可能性を提出した。



### 映像ショーケース - “J”演劇とは何か?

9月13日(火) 10:00~11:30 / 東京国際フォーラム ホールD1 ディレクター: 内野 儀(演劇批評家)  
 [紹介カンパニー] チェルフィッシュ / ARICA(アリカ) / イマージュオペラ / ポツドール / 地点 / 遊園地再生事業団 / 指輪ホテル

世界的にみると大変「個性的」に進化している日本の新しい演劇を、セミナー形式で紹介。映像とディレクター本人の邦英両方の解説により、今日注目されている団体の活動を紹介した。



### 韓国(国楽)の新しい4人を聴くープリ ~伝統を超えて世界のサウンドへ~

9月13日(火) 15:30~16:15 / 東京国際フォーラム ホールB7-1

[出演] プリ[ウォン・イル / ハン・スンソク / キム・ウンシク / チョン・ジェイル]

ソウル舞台芸術見本市(PAMS)の協力を得て実現。韓国の伝統音語とそのリズムを根幹に、様々な現代的、世界的な音楽要素を取り入れオリジナルな音楽活動を展開し、韓国内はもとより世界各地で活動しているプリの高度な演奏は多くの観客を魅了した。



### 邦楽ニューウェーブ

9月13日(火) 16:15~18:15 / 東京国際フォーラム ホールB7-2

ディレクター: 織田麻有佐(邦楽ジャーナル編集者)  
 [出演] 英哲風雲の会[上田秀一郎、小泉謙一、はせみきた、田代 誠] / 栗林秀明 / 齋藤 徹 / 新田昌弘 / ディーン・マグルウ / 浅野 祥

太鼓の林英哲や津軽三味線の吉田兄弟など邦楽の枠組みを大きく逸脱して、国内のみならず、海外へとそのフィールドを広げているアーティスト達が、ここ数年で目立ってきている。この「邦楽ニューウェーブ」では現在活躍し、また今後活躍が期待される邦楽ミュージシャン達を集め、英哲風雲の会はハンガリーのシゲットフェスティバルから招聘希望を受けた。





## New Sonic Performance

9月13日(火) 19:15~21:15 / 丸ビルホール ディレクター: 畠中実(NTTインターコミュニケーション・センター学芸員)

【出演】角田俊也 / 澤井妙治 / 堀尾寛太 / 柳澤真梨奈

一般的には「音楽化」されることがない、音そのものの新しい芸術的言説を設営しようとする試みによって組み立てられた企画である。それはパフォーマンスやインスタレーションを複合的に提示したり、室内、野外を問わずあらゆる空間がオープンな表現の場となる。ここでは、主に映像やインスタレーション、音響装置などと音楽の関係を追求しているアーティスト達に集ってもらい実演とレクチャーを実施。スペインのソナーフェスティバルなどから招待を受けた。



## 映像ショーケース - コドモ身体の逆襲

9月14日(水) 10:00~11:30 / 東京国際フォーラム ホールD1 ディレクター: 桜井圭介(作曲家)

【紹介カンパニー】ニブロール / 身体表現サークル / 黒田育世 / ボクデス / 康本雅子 / チェルフィッチュ / KATHY(キャシー)

やはり近年きわめて特異な位置を占める日本のコンテンポラリーダンスをディレクター独自の切り口により解説。日本の最新ダンスをここでは「コドモ身体」と名付け、映像とレクチャーにて紹介した。

## カナダの音楽ショーケース - タサ

9月14日(水) 15:30~16:15 / 東京国際フォーラム ホールB7-2

【出演】タサ[ラヴィ・ナインバリー / クリス・ガードナー / アラン・ヘザリントン / ジョン・グゾウスキ / ドゥルバ・ゴージュ / サミダ・ジョグルカー]

カナダ・カウンシル及びCINARSの協力により実現。カナダからインド系音楽が紹介された事で、カナダの多彩な文化背景への理解が深まるとともに、ワールド・フュージョンの奥深さに魅了されるショーケースとなった。



## Take a chance project - コンテンポラリー・ダンスの現在

9月14日(水) 16:15~18:15 / 東京国際フォーラム ホールB7-1

ディレクター: 志賀玲子(伊丹市立アイホールプロデューサー)

【出演】砂連尾理+寺田みさこ / BABY-Q(ベイビー・キュー) / 山下 残

1960年代に生まれた舞踏の登場以来、多種多様な側面を持つに至った。日本のコンテンポラリーダンス。そのなかでも関西を拠点に活躍するパフォーミング・アーティストとの共同制作事業を展開している、伊丹市演劇ホール(アイホール)でのプロジェクト「Take a chance project」を紹介。「トヨタコロオグラフィーアワード2002」において「次代を担う振付家賞」および「オーディエンス賞」をダブル受賞した砂連尾理+寺田みさこ、同じく「トヨタコロオグラフィーアワード2004」において「次代を担う振付家賞」を受賞したBABY-Q、東京国際芸術祭2004で東京公演を行った山下残の現在、もっとも勢いのあるアーティスト達を紹介し、多くのプレゼンターからショーケース後、話を受けていた。



## Altervision 05 - Avant Music Night

9月14日(水) 19:15~21:15 / 丸ビルホール

ディレクター: 伊東篤宏(美術作家・美学校講師)  
[出演] ドラびでお / 恩田晃 / 秋山徹次 / Optrum(オプトラム)

インプロヴィゼーションは、あらゆる音楽活動のうちで、もっとも広範に実践されているにもかかわらず、探訪されないが故にその知識はまったく存在していないといえるだろう。しかしつねに新しいフォルムが創造されるにあたって力強い推進力であり、即興演奏の影響を受けずにきた音楽分野などまず1つもないといえる。技量の高いこれらのアーティストの演奏は、海外のプレゼンターから多数のコンタクトがあり、カナダのイメージフェスティバル、スペインのソナーフェスティバル、パリの日仏文化会館のジャズフェスティバルなどに招聘されている。



## クロージング・ショーケース Different Music (s) / Tokyo Next Texture

9月15日(木) 17:30~19:30 / 東京国際フォーラム ホールB7-1 ディレクター: 大谷能生(批評家・音楽家)

[出演] sim(シム) / gnu(ヌー) / 降神

テクノロジーと想像力の高水準の結びつきにより従来のバンド・ミュージックから大きく逸脱して個性豊かなフォームを得た音楽家によるショーケースは、ショーケース最後を飾るふさわしいものとなった。特に本ショーケースは当日入場の観客が多く、国内公演の可能性も多生まれたプログラムとなった。



# Conferences

## 6. セミナー

### 舞台芸術のための著作権

9月13日(火) 10:00~12:00 / 東京国際フォーラム G502

講師: 福井健策 [弁護士・ニューヨーク州弁護士]

このセミナーでは公演制作に欠かせない著作権法の基礎知識を、舞台芸術の制作者、アーティストの双方に向けて、わかりやすく講義することを目的とする。

まず著作権とはどのような権利かということ、本を例に挙げて、本に対する所有権とその中の情報についての権利である著作権との違いによって説明。その後、具体的に著作物とはどのようなものなのか、舞台芸術において、著作権と混同しがちである実演家の持つ隣接権や判断として微妙な照明や舞台衣装に話が及び、舞台公演そのものは、現行では著作物にはあたらないという考え方が話された。模倣とオリジナルの境界については、スイカ写真事件、「ライオン・キング」と「ジャングル大帝」の違いを例に挙げて、どのような場合であると裁判では違法とされるかという事例をビデオやOHPを使用して提示した。また、今、問題になっている著作権者の許可なく使用して良い例外として認められている「私的使用のための複製」に話が及んだ。この権利について「どのような対処を取ればよいか」という質問には、どのようにしたら勝手に録音をできないようにするか試行錯誤している状況であり、現実のところ法律が追いついておらず、現在見直し議論が進められているという最近の動きを説明した。

- 著作権の権利について、文庫本を例に挙げて説明
- 著作物にはどんなものがあるのか? その条件は?
- 舞台芸術においては何が著作物なのか? 舞台公演そのものは著作物なのか?
  - ・ 演劇家 / 俳優 / ダンサーなど実演家の持つ権利は?
- 著作権の中身である上演権、上映権、公衆送信権、展示権、翻訳権、翻案権などを説明
- 著作者と著作権者の違い。著作者人格権についての説明
- 模倣とオリジナルの境界
  - ・ スイカ写真事件や「ライオン・キング」と「ジャングル大帝」を例に説明
- 著作権者の許可なく使用して良い例外
  - ・ 私的使用のための複製や引用、営利を目的としない上演、上映、貸与など
- 著作権の保護期間
- 著作隣接権について
- 質問

## 国際交流基金レクチャーシリーズ インドネシアの舞台芸術事情について

9月14日(水)10:00~11:30 / 東京国際フォーラム G508

スピーカー:トニー・ブラボウォ[ニュー・ジャカルタ・アンサンブル設立者]  
 イ・グスティ・コンビアン・ラカ[ジャカルタ芸術劇場芸術マネージャー]  
 サプト・ラハルジョ[インドネシア作曲家協会メンバー・元代表]  
 ドゥウィッキ・ダルマワン[ジャカルタ芸術評議会音楽担当]

2008年は日本とインドネシアの国交が樹立して50周年を迎え、両国の交流がますます盛んになることが期待され、インドネシアと日本の文化交流・相互理解の促進を図るため、インドネシアの舞台芸術関係者を招聘し、インドネシアの舞台芸術事情についてのレクチャーを行った。

レクチャーではインドネシア音楽として、インドネシアの伝統楽器であるガムランと電子楽器との融合などの説明、またガムランがインドネシアの音楽の源泉として、今も引き継がれていることなどの説明があった。

## 2005! 公立文化施設はどう変わる!? - 市町村合併・指定管理者制度をむかえて -

9月14日(水)10:00~12:00 / 東京国際フォーラム G502

コーディネーター:吉本光宏[株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室室長]  
 パネリスト:中川潤郎[帝塚山大学大学院教授]  
 藤井保雄[朝来市文化会館 和田山ジュビターホール副館長]  
 高橋保夫[横浜市文化芸術都市創造事業本部 文化政策課]

市町村合併、指定管理者制度をむかえて公立文化施設がどうあるべきかについてシンポジウムを行った。

吉本氏の進行に基づき、高橋氏からはすべて公募により行われることになった横浜市の公立文化施設の指定管理者制度の導入の状況や問題点などについての説明、藤井氏からは合併前に各町村がもっていたホールが合併により一市に三つのホールを持つことになり、それぞれの各施設の役割分担、今後の運営方針、直営となった経緯などについての説明が行われた。中川氏からはそれぞれのパネリストの話から、合併、指定管理者制度における問題点や公立文化施設のミッション、それを決める地方公共団体の文化政策、さらに公立文化施設の評価の必要性、課題について指摘された。

会場は立ち見もできるほどの満員となり多くの聴講者と問題を共有できた。

## シンポジウム 地域の将来像を夢見る

イギリスにおけるコミュニティダンスの歴史的背景と現状を参考に、ダンスを通して地域の将来像を夢見る

協力:プリティッシュ・カウンシル

9月14日(水)19:00~21:00 / 東京国際フォーラム G502

第1部「イギリスにおけるコミュニティダンスの歴史的背景と現状」19:00~19:55

スピーカー:クリストファー・トムソン[ザ・プレイス、ラーニング・アンド・アクセス部門ディレクター]

第2部「日本での地域の現状と将来像を夢見る」20:05~21:00

パネリスト:岩崎乳二[豊岡市民プラザ館長]

佐野理賢[財団法人仙南文化振興財団 えすこホール]

三浦雅子[財団法人福岡市文化芸術振興財団 事業課長]

クリストファー・トムソン

モデレーター(1・2部とも):佐東範一[NPO法人Japan Contemporary Dance Network 代表]

英国におけるコミュニティダンスの紹介後、日本国内の地方におけるダンスの活動について、公共ホールや財団の自主事業担当者から現場の声を聞き、ダンスによって何ができるのかを考える。

第一部では、クリストファー・トムソン氏より、1970年代、コミュニティダンスはどのような状況で生まれたのか説明された。まず1番目として、70年代の英国ではコミュニティというものが失われつつあったこと。2番目に、教育に対する考え方が子ども中心に移り変わり、反エリート主義であったこと。3番目にクラシックなテクニックへの懐疑から生まれたポストモダンダンスが主流となったこと。これは振付家を特別視するものではなく、誰でもが振付を考えて良いものであった。4番目には、全ての人に平等に機会を与えるという考え方。政府が多く活動に補助金を出すにあたってこうした説明責任があった。5番目に、公的資金、慈善団体からの寄付金があったこと。6番目に、仕事をもとめるプロのダンサーがいて、教えることに楽しみを見出すこととなった。7番目にプロフェッショナルとノンプロフェッショナルの両方の人たちと仕事することがプロフェッショナルダンサーのキャリアとなるという考え方になっていったことが挙げられる。これらに補足して、50年代より英国の公的教育システムのなかでダンスが取り入れられたため、教育者がダンスの重要性を認識していたという素地があった。また、ポストモダンダンスによる、ダンスにおける民主主義という考え方があってこそ、プロもノンプロから学べることが多くあるという考えになった。さらに、60年後半から70年にかけては、英国にダンスを学びにくる人が多く、そうした人たちはダンスを学ぶと同時にダンスを社会へ還元することを学んでいた。そして、実際に経験してみるとコミュニティダンスの楽しさを知る。こうした複合的な要因によってコミュニティダンスは発展をとげることとなる。コミュニティには様々な種類があるが、ダンスというのは、短期のものであるにもかかわらず、緊密で親しい感覚を即座に作るすることができる。そしてコミュニティダンスは年齢や能力にかかわらず、全ての人にダンスをする機会を与えるものである。こうしたダンスの特性を活かし、英国政府は社会から排除された人を救う手段としてダンスを考えている。というのもコミュニティダンスはあらゆるスタイル、ジャンルを受け入れ、排他的なものでなく、参加している人に連帯感を感じさせ、自分が評価され、理解されていることを実感させることができるのである。こうした具体例として、プロフェッショナルのダンサーとホームレスが共同で作品作りを行う様子などの映像が紹介された。

第二部では各パネリストの事業紹介。それぞれの事業で共通していることは、その地域の特性を活かした事業展開である。豊岡市民プラザは、子育て支援、市民活動の拠点として、劇場という3つの機能をあわせ持つ複合施設であって、この3つの機能のそれぞれ異なる利用者が集まり、4つめの機能が働くことを目指している。また、財団法人福岡市文化芸術振興財団ではオープンからダンスは同時代をあらゆる芸術として着目し、想像力・コミュニケーション能力をもった人を増やすことが都市の活力となると考え、福岡発のアーティストを誕生させることを目指し、ワークショップや海外のアーティストの招聘を行っている。英国とは異なる状況でのダンスへの取り組みではあるが、コミュニティを形作るものとしてダンスに着目している点は共通しており、英国のケースは今後、国内のダンスの活動の参考になると考えられる。ただし、トムソン氏は英国を決してロールモデルにはしないと語り、どうやって持続可能なモデルを作れるのかが重要であり、一番大切なことはこうしたまだ見えない活動を可視化することでサポートを得られるようになることであると結んだ。

## 国際交流基金レクチャーシリーズ ベトナムの舞台芸術事情について

9月15日(木)10:00~11:30 / 東京国際フォーラム G508

スピーカー: チャン・キエン [ホーチミン市テレビ局 撮影・監督課長]  
 フィン・フック・ディエン [フリーランス 音楽舞台ディレクター]  
 グエン・クアン・ビン [ベトナム舞踏劇場 公演担当副所長]  
 ゴー・ヴァン・タイン [ハノイ音楽院副院長・ヴァイオリン科教授]

2005年に日本とベトナムの有識者による意見交換が行なわれるなど、両国の関係強化に向けた取り組みが進められているが、両国のさらなる文化交流・相互理解の促進のため、ベトナムの舞台芸術関係者を招聘し、ベトナムの今日の舞台芸術事情についてのレクチャーを行なった。

レクチャーでは、それぞれの活躍している分野で制作したビデオなどを通じて、ベトナムの伝統楽器である一絃琴や国立音楽院での演奏会、ベトナムで人気のあるポップスの情報など、今日のベトナムの文化事業についての説明があった。

## 劇場の持つ機能と役割

9月15日(木)10:00~12:00 / 東京国際フォーラム G502

講師: 平田オリザ

[支配人・劇団主宰・劇作家・演出家・桜美林大学総合文化学群教授・大阪大学コミュニケーションデザインセンター客員教授]

こまばアゴラ劇場の支配人でもあり、富士見市民文化会館の芸術監督として公共ホールの運営を行っている平田氏の経験から、これからの公共ホールの運営方法について考える。

まず、公共ホールの運営にあたり、ミッションという言葉がよく使われるようになったが、これを厳密に期間ごとに区切って考える必要があることが話された。文化行政を支える理念で、なぜ芸術文化に行政が関わらなければならないかという哲学である長期的なミッション。なぜ、いま、ここで文化行政なのかという5年から20年くらいを見据えた会館の機能を明確化した中期的なミッション。中期的なミッションのために取り組まなければならない現実的な課題である短期的なミッション。そして、限られた予算のなかで「学習」「交流」「創作・発信」などの中期的なミッションをバランスよく行うことが求められている。しかし、実際の運営としては、予算の少ない劇場などもあり、そのホールの特性を見出し一つの事業に特化してゆくことも方法の一つであるものの、劇場を活性化し、スタッフの質を維持するためには、ネットワークなどを活かしつつ、何らかの形で創作活動を行ったほうがよい。人材については、これらの活動を実現するためにも、ミッションを示した上で、芸術監督や契約プロデューサーを非常勤で採用することは予算的にも有効活用となる可能性があるという考えが話された。また、文化行政にはなじまない点もあるが、指定管理者制度の導入は、個人個人の力が問われることとなり、やる気のある職員にとってはチャンスともなる。こうした人材の有効な活用が今後のホール運営には必要となってくると指摘した。



## オーストラリアにおける現代音楽の最新トレンド

主催:オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ

9月15日(木)11:00~12:00/東京国際フォーラム ホールD1

スピーカー:スースペンス[オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ プロジェクト・コーディネーター]  
 ダリル・バックリー[ELISION Ensembleアーティストティック・ディレクター]  
 オレン・アンバーチ[サウンド・アーティスト/What is Music? フェスティバル共同ディレクター]

オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツはここ数年間にわたり、ブース出展及びセミナーを通して、継続的にオーストラリア国内の舞台芸術のトレンドやアーティスト、作品を紹介してきている。今回はTPAMが焦点をあてる音楽分野の、2名のスピーカーがコンテンポラリーミュージックと実験音楽のシーンに関する映像を交えたレクチャーを行った。

- オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツの働き
- バックリー氏の活動紹介
- オーストラリアコンテンポラリーミュージックの特徴とアーティストの紹介
- アンバーチ氏の活動紹介
- 実験音楽シーンとWhat is Music? Festivalの紹介。

## 英国ダンス最新事情

主催:ブリティッシュ・カウンシル

9月15日(木)15:00~16:00/東京国際フォーラム ホールD1

スピーカー:キャロル・マクファーデン[ブリティッシュ・カウンシル、ドラマ・ダンス担当プロジェクトマネージャー]  
 瀬浅真奈美[ブリティッシュ・カウンシル(東京) アーツ・マネージャー]

今回、ブリティッシュ・カウンシルは初めてTPAMに参加、ブース出展及びビデオプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは、英国のコンテンポラリーダンスの状況を説明すると共に、活動が目されるアーティストを紹介。演劇のみならず、コンテンポラリーダンスの分野でも日英のアーティストによるコラボレーションや来日公演など、積極的に活動を広げていく方針を打ち出した。

- ブリティッシュ・カウンシルについて
- 「パフォーマンス・イン・プロファイル」、雑誌「オン・ツアー」など英国の演劇・ダンスを紹介する出版物の紹介
- 現在の英国コンテンポラリーダンスの状況とアーティストの紹介
- 英国内のダンスフェスティバルについて

## 美術館におけるパフォーマンスの可能性

9月15日(木)15:00~16:30/東京国際フォーラム G502

スピーカー:岡本芳枝[広島市現代美術館学芸員]  
 近藤恭代[金沢21世紀美術館チーフプログラム・コーディネーター]  
 椎 啓[国際芸術センター青森主任技術員]  
 丹羽晴美[東京都写真美術館学芸員]  
 モデレーター:東谷隆可[インディペンデント・キュレーター]

ワークショップ、コンサート、パフォーマンス上演といった活動を行っている美術館関係者に集ってもらい、こうした活動を紹介することで、多様なプロジェクトの展開や新たなパフォーマンスの可能性を提案することを目的とした。各スピーカーが各施設の事業をパワーポイントで説明し、事業や施設の様子を画像で見せることでどのようなことをしているのかをプレゼンテーション。その後、いくつかの質問がモデレーターよりされた。例えば、美術館という劇場とは違った設備を持つスペースでの上演に関して、その差をどう考えるのかという質問に対しては、「劇場にはないフレキシブルさを提供できる」(岡本氏)や「自身もアーティストであることから、そういった立場での意見交換も可能である」(椎氏)などの意見が出た。劇場とは異なるスペースでパフォーマンスを行うことにはさまざまな制約もあり、解決しなければならない問題もこの場では出たが、パフォーマンス上演を行う美術館が今後、増えてゆくと考えられる今、このジャンルで先駆的な活動をする美術館を紹介できた。



## バルセロナ ソナーフェスティバル

— 既存のジャンルを超えた最先端な音とマルチメディアのフェスティバル —

協力: スペイン大使館

9月15日(木)16:30~17:30 / 東京国際フォーラム G502

スピーカー: エンリク・バラウ[アドバンスト・ミュージック/ソナー共同ディレクター]  
モデレーター: 高向利治[third ear]

今回特集とする音楽ショーケースの分野に照準をあて、サウンドとマルチメディア・アートのフェスティバルとして評判の高いソナーフェスティバルよりバラウ氏を招待、映像を交えて ①過去のソナーフェスティバル ②日本のアーティストとの関係 ③ソナーフェスティバル東京の紹介 ④今後の展望などのセミナーが行われた。

### ■ソナーフェスティバル概要

期間: 毎年6月中旬の3日間

対象: エレクトリックミュージック、マルチメディア・アート、映像

規模: 観客 約89,000人 (2005年)、6会場

予算: 3,535,973 ユーロ (2005年)

参加者: 日本を含め18カ国約600組のアーティスト(2005年)

プログラム: 昼・夜部門に分かれたライブパフォーマンスを中心に、プロフェッショナルのためのレコードフェア(ブースセクション)、

映像セクションに分かれ、その他パネルディスカッションなども行われる。

# Audicovisual Corner / Lunch Meeting

## 7. CD・DVD試聴コーナー／ランチ・ミーティング

### ●CD・DVD試聴コーナー

9月13日(火)13:00~16:00 / 14日(水)12:00~15:30 / 15日(木)13:00~15:00

東京国際フォーラム ホールB5

約1,000枚のCD及びDVDのジャケットを展示、試聴できるコーナーをブース・プレゼンテーションに隣接した会場に設置した。このコーナーでは、試聴してみたいCD、DVDのジャケットを受付に持って行き、そのCD、DVDを各ブースで試聴できるというシステムとなっている。今回は邦楽器を使った音楽を中心に選んだが、単純に「邦楽」というジャンルに大別できない多彩な日本の音を集めた。これらに加えて、インターナショナル・ショーケースのディレクターである伊東篤宏氏、大谷能生氏、島中実氏のセレクションによるCDも合わせて展示した。展示したCDのなかには現在では絶版のものも含まれており、貴重な音源を試聴する機会となった。



### ●ランチ・ミーティング

9月13日(火)12:00~13:00 / 東京国際フォーラム ホールB5

9月14日(水)12:00~13:00 / 東京国際フォーラム G510 (カナダ大使館・東京芸術見本市2005共催)

9月15日(木)12:00~13:00 / 東京国際フォーラム ホールB5

ブース出展団体、ディレクターなど国内外の舞台芸術関係者が参加して昼食をとりながらカジュアルに話す機会を持つランチ・ミーティングを実施した。特に14日のカナダ大使館と東京芸術見本市2005の共催のランチ・ミーティングは無料ということもあり、ブース出展団体がほぼ参加し、その後のプログラムであるブース・プレゼンテーションへとつながるきっかけをこの場でつくり出すことができた。



# TPAM Fringe

## 8. TPAMフリンジ

東京芸術見本市2005の開催期間の前後に行われる公演をTPAMフリンジとして、TPAM参加者にフルサイズの公演を観劇する機会を設けた。フリンジ参加団体には、東京芸術見本市のチラシ、ウェブサイト、メールにて公演情報を告知し、国内外の参加者に割引券・招待券を提供することによって各団体を紹介した。

### ●サルヴァニラ 『+813』 / 『.JP』

日時:『+813』9月7日[水]・8日[木]・10日[土]19:00 / 11日[日]17:00  
『.JP』9日[金]17:30

会場:BankART Studio NYK

### ●愛知芸術文化センター 『ダンスオペラ UZME』

日時:9月10日[土] 17:00 / 11日[日] 14:00

会場:愛知県芸術劇場大ホール

### ●パパ・タラフマラ 『三人姉妹』

日時:9月10日[土] 16:00, 20:00 / 11日[日] 14:00, 18:00

会場:スタジオSAI

### ●ARIGA 10 MUSIC 『ZIPANG with アフリカの演奏家達』

日時:9月12日[月] 開場19:00, 開演19:45 / 15日[木] 開場 18:45, 開演19:45

会場:[12日]代官山Art Stage Birth [15日]SOMEDAY

### ●財団法人 日本伝統文化振興財団

『上原まり 連れ琵琶 清盛』 『若林美智子 哀の調べ〜風の盆より』

日時:『上原まり 連れ琵琶 清盛』 9月14日[水]19:00

『若林美智子 哀の調べ〜風の盆より』 9月15日[木]19:00

会場:国際交流基金フォーラム

# Coordinated Events

# Coordinated Performances

## 9. 提携事業

「日本の音フェスティバル in 会津」と「第3回ダンス・フォーラム— pointe to point」と事業提携した。「日本の音フェスティバル in 会津」においては、邦楽と邦楽器について広く知ってもらう為に、TPAM参加者のなかで希望者を募り、会津までのツアーを組みフェスティバルに参加した。「第3回ダンス・フォーラム— pointe to point」においては、ワークショップの成果としてのショーイングを行い、TPAM参加者に観劇の機会を提供した。

### ●日本の音フェスティバル2005 in 会津

主催:社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC) 助成:社団法人私的録音補償金管理協会(sarah)  
共催:会津若松市 / 会津若松市教育委員会 制作:邦楽ジャーナル

日時:9月10日(土)10:00~20:40 / 9月11日(日)10:00~18:00

会場:福島県会津若松市 鶴ヶ城ほか会津若松市内

入場料:無料 来場者数:5,500人

### ●第3回アジアヨーロッパダンス・フォーラム — pointe to point

主催:アジア欧州基金(ASEF) 協力:東京ドイツ文化センター

日時:9月13日(火)20:00

会場:国際交流基金フォーラム

入場料:無料 来場者数:300人



©平野 正樹

## 10. 提携公演

ブース・プレゼンテーションにも参加した「こまばアゴラ劇場」の具体的な活動として、こまばアゴラ劇場支配人である平田オリザ氏の戯曲『S高原から』を若手演出家4人によって再構成した「ニセS高原から」の連続上演を提携公演として紹介した。TPAM参加者には、チラシ、ウェブサイト、メールにて情報告知し、国内外のプロデューサーなどには招待券を提供し、演出家4人による4作品をそれぞれ観劇してもらう機会を創出した。

### ●ニセS高原から〜『S高原から』連続上演

主催:(有)アゴラ企画・こまばアゴラ劇場

企画制作:五反田団・蜻蛉玉・三条会・(有)アゴラ企画・こまばアゴラ劇場

日時:8月28日(日)~9月27日(火)14:30 / 19:30

会場:こまばアゴラ劇場

## 11. パブリシティの記録

【記事掲載】

## ■新聞

日本経済新聞	8/31(水)朝刊掲載
読売新聞	9/3(土)夕刊掲載
共同通信	9月頭配信
朝日新聞	9/7(水)朝刊掲載
東京新聞	9/7(水)夕刊掲載
神奈川新聞	9/8(木)掲載
しんぶん赤旗	9/9(金)掲載
上毛新聞(群馬県)	9/10(土)掲載
日本経済新聞	9/29(木)夕刊掲載
CUT IN 表現を発見する小劇場の新聞	Vol. 42 / 9月号掲載
CUT IN 表現を発見する小劇場の新聞	Vol. 43 / 10月号掲載

## ■雑誌 他

パチ2 津軽三味線と太鼓の情報誌(邦楽ジャーナル発行)	7/28発行8月号掲載
邦楽ジャーナル(邦楽ジャーナル発行)	8/1発行8月号掲載
toward FORUM(東京国際フォーラム発行)	8/1発行 9・10月号掲載
美術手帳(美術出版社発行)	7/19発行8月号掲載
Quick Japan(太田出版発行)	8/27発行Vol. 61掲載
流行通信(INFAS/パブリケーションズ発行)	8/27発行10月号掲載
パチ2 津軽三味線と太鼓の情報誌(邦楽ジャーナル発行)	8/28発行9月号掲載
DDD dancedancedance(フラックス・パブリッシング発行)	9/1発行9月号掲載
シアターガイド(モーニングデスク発行)	9/2発行10月号掲載
relax(マガジンハウス発行)	9/6発行10月号掲載
STUDIO VOICE(INFAS/パブリケーションズ発行)	9/6発行10月号掲載
パチ2 津軽三味線と太鼓の情報誌(邦楽ジャーナル発行)	10/28発行11月号掲載

## ■英字雑誌

メトロポリス(Crisscross KK発行)	9/9発行 第598号掲載
-------------------------	---------------

## ■ウェブサイト

DANCE CUBE チャコット web magazine(株式会社チャコット運営)
OzArts online(The Australian International Cultural Council [AICC] 運営)
TOKYO ART INDEX(東京都運営)
TonTon club 人生のセカンドハーフを愉しむサイト(株式会社ジャパンマテリアル運営)
REAL TOKYO(REAL TOKYO運営)
clubberia Dance Music Archives(株式会社クラベリア)

## 【広告】

Quick Japan(太田出版発行) 8/27発行Vol. 61掲載

## 【当日取材】

- 瀬崎久見子氏(日本経済新聞 文化部 記者)  
「美術館におけるパフォーマンスの可能性」セミナー取材  
掲載:同紙9/29(木)夕刊
- 池林国男氏(NPO法人日本アーツセンター 事務局長)  
「劇場の機能と役割」セミナー取材  
掲載:「アーツ」Vol.3(2006年1月発行)
- 有岡三恵氏(新建築社発行「新建築」編集者)
- 野澤氏(共同通信社 文化部 記者)
- 坪池栄子氏(株式会社文化科学研究所客員プロデューサー)  
吉田恭子氏、ビルエッタ・ムラリ氏取材  
掲載:「地域創造レター」10月号(9/25発行)他
- 西谷美緒氏  
エンリク・バラウ氏取材  
掲載:ウェブサイト「クラベリア」



# 文化

## 演劇・ダンス・音楽 世界の芸術を紹介 12日から東京で

国内外の舞臺芸術を紹介する「東京芸術見本市」が12日から15日まで、東京・丸の内駅東口国際フォーラムで丸ビルホールで開催される。11回目を今年は何にも異色ショーゲーム(実演)に力を入れる。劇場・ホールや各地の芸術祭の舞台などの映像と映像・サウンドクリップを目的とする単に「ショーケース」や「各種セミナー」を「有料」で催すのも目玉だ。



主催は国際交遊基金、地産物産、国際舞台芸術交流センターで作る実行委員会。丸の内駅東口から同休会館の101号の参加が決定されている。演劇、ダンス、音楽など幅広いジャンルの映像と映像・サウンドクリップを目的とする単に「ショーケース」や「各種セミナー」を「有料」で催すのも目玉だ。

**論議講座を開講**  
東京の目から全27回  
是の1(論議)を定例講座として開講。評論家菅野英和氏による解説と演説を収録する「論議講座」が、9月15日から12月まで、毎1回、19時30分～21時30分、午後6時半開講。東京都港区高輪田町2-15のW7セミナー棟で。受講料は1回6千円。全期11回、問い合わせ、中野区本町5-15-1、大学本部(03)5711-1111、03-5711-1111 (03)5711-1111 (03)5711-1111 (03)5711-1111

紹介するショーケースは、20以上のプログラムがある。音楽・ショーケースは、おおかたが演劇・取材による。土の響き、地球の音の音楽とパフォーマンスが融合した「ウルター」(03)5711-1111。藤田晃が出演する「伝説音楽家根さし」が、現代音楽を追求する舞臺グループ「フリー」等

真・イベントの伝説音楽家を使う。カネサキのポップス・サンプリングの演奏もある。  
4月10日(土)券4千円、1日券2千円。お申し込みは、プログラムに参加する(二部制)等。  
問い合わせ先: www.tpaam.or.jp / tpaam@tpaam.or.jp / 03-5711-1111 (03)5711-1111 (03)5711-1111

# 朝日新聞

© 朝日新聞社 2005年  
発行所 東京都千代田区三番町  
朝日新聞東京本社  
電話 03-3545-0131

## 公演、ライブが目白押し 12日スタート

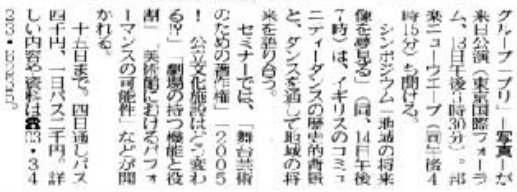
十回目を迎えた東京芸術見本市「12日」が、12日から新館でありながら懐かしい地名を、演劇、ダンス、音楽などを紹介するマーケットも。海外から37か国が参加する。今年から「二橋見本市」の名が「東京芸術見本市」に変わり、会場も東京国際フォーラムに戻って、丸ビルに隣りて、丸ビルホールが加わった。ショーケースは、音楽に焦点を当て、オープニングは土の響き、地球の音(丸ビルホール、12日午後8時)。現代民族楽器の可能性を探る新世代ロコモトニア

「オケウイング」の演奏で、グルーブアップ! 実演! が来日公演(東京国際フォーラム、13日午後1時30分)。邦楽ニコーエープ(14日午後4時15分)も開演。

シンポジウム「共通の将来像を導く」(14日午後7時)は、イギリスのコミュニティダンスの権威的音楽家、ダンスを通して地域の将来を語る。

セミナーは、「舞臺芸術のための演劇」(2005! 公文文化館では、変化する)「劇団の持つ機能と役割」(美空閣)「おけるパフォーマンスの可能性」など公開される。

15日まで、四日通しバス4千円、一日バス2千円。詳しい内容は、資料は03-3403-1111



# 東京新聞

夕刊

★中日新聞東京本社  
東京都港区赤坂二丁目3番13号  
〒106-8010 電話 03(3471)2211

●9月13日「東京芸術祭本市2005」の「舞台芸術のための新作演劇」(前ノ真風国際フォーラム会館)というセミナーに行く。「見本市」はショーケースという考え方で、舞台芸術を国内外の劇場関係者にプロモーションする。独立美術館で「アートフェア東京」という、美術館の元来のようなものが行われていたが、作品展示と売場に過ぎなかった。その点、「見本市」にはもうゲームあり、話しかき意義。「新作演」という言葉は知っていても、ひとりの作品の何をここでどこまで「新作演」とするかの、実際の介通しがいかにオーソクドだった、面白かったの「聞いていもの」の事例として



セムナー「美術館」におけるパフォーマンスの可視化

て手塚治之の「ジャングル大帝」とアズーラ映画「ワイルドキング」の実際の映像を比較し、違いや類似点を改めてくわえたこと。「新作演」の考え方が体系的に育った(藤田千砂)

●9月15日「見本市」で見た二つ目のセミナー「美術館におけるパフォーマンスの可能性」(前ノ東京国際フォーラム会館)である。正島吉典氏(美術館、金沢21世紀美術館、国際芸術センター青森)と、比較的现代美術を扱い、芸術という枠の中でパフォーマンスを結合する実践型の事例を紹介する。現場の芸術者が成果や問題点を報告した。聞いていて「(理

論)美術」とは「あらゆることを表現する」ジャンルのいう気がしてきた。だから美術館でパフォーマンスにやるのは、も実感、いざれのセミナーも満席で、舞台関係者たちの関心の高さが伝わった。14日の「文化施設はどの面から？」というセミナーにも行った。これはタイトル通り、指定管理者制度や民間委託制に備える美術館やホールの出発点と、大学教授や企業家など様々な立場からのトークであった。関係者交流の機会を捉え、新鮮な刺激を吸収する場としてトシチは奮闘だ。(CUT IN 美術館直島・藤田千砂)



## まだ見ぬ"オルタナティブな"方向へ。 実験的な音響表現が聴き手を挑発する。

東京芸術祭本市2005 ショーケース  
8月12～16日  
◎丸ビルホール/東京国際フォーラム

【創作家紹介】

新しい音響を作るために、まず考えられるのは新しい楽器を作ってしまうことだ。作東直志による「sptm」は並走型が発音する際二重の故直ノイズを埋めさせ発音するもので、その伴奏音は音楽家、少なくとも音楽系に馴染みあることを前提に作られている。今回の「sptm」として4.1.1.1の「sptm」(10)の演奏は、その実質的な構成から予想がつかない。ド、ド、ド、ド、ド、ドといった要素を完全に表現した音と異なるものであった。神澤真実(10)は、透明なアクリル・パイプの中に仕込まれたマイクとスピーカーをからりンダすることによって音を発生させる自作楽器「ハクリン」を演奏。その不思議な響きを有効に使った活き響きの音楽を演奏した。この文脈に共通するのは、新しい音響材の可能性を探った結果、独自の音響に辿り着いている点だ。言葉に対して新しい要素の獲得は、ただ目撃したと見なすばかりではなく、演奏や実践にかかわる身体性の方面にまで足を踏み出す。大きなものがある。

■【音響】への視点をアプローシ

「New sonic」(1)と「A.Terronico」(1)に出現した「エアースタ」に対する「音響」という概念への注目は、音楽「音響」とは何かを問うられる音楽もよく登場し注目されているが、この場合の音響とは、人工的に「創造」される現象としての「音響」としての「音響」ではなく、その音が鳴らされる環境との関係、さらにそれをどうにかし、聴くのか、といった「聴くこと」との関係までを含んだ問題意識もなされている。

■「音響」への視点をアプローシ  
「New sonic」(1)と「A.Terronico」(1)に出現した「エアースタ」に対する「音響」という概念への注目は、音楽「音響」とは何かを問うられる音楽もよく登場し注目されているが、この場合の音響とは、人工的に「創造」される現象としての「音響」としての「音響」ではなく、その音が鳴らされる環境との関係、さらにそれをどうにかし、聴くのか、といった「聴くこと」との関係までを含んだ問題意識もなされている。

特集  
藤田千砂の著作  
2005

「現場」(10)は、これ以上にも述べたPCのファン等の音源の相手をマイクで取り、通気によって複数の音源が干渉したり、変化したりする様子やセンサー・フット音、音がたたくように忠実に再生しているのにも触れ、みせた。藤田直志(10)は、音響のファクトリーに属する環境音を発生し、料理アンプを操作し、音のファクトリー化し、耳で聞いたりすることもできる。さらに音源を聞き、耳で聞いたりすることもできる。このように音源を聞き、耳で聞いたりすることもできる。このように音源を聞き、耳で聞いたりすることもできる。このように音源を聞き、耳で聞いたりすることもできる。このように音源を聞き、耳で聞いたりすることもできる。

「音響」への視点をアプローシ  
「New sonic」(1)と「A.Terronico」(1)に出現した「エアースタ」に対する「音響」という概念への注目は、音楽「音響」とは何かを問うられる音楽もよく登場し注目されているが、この場合の音響とは、人工的に「創造」される現象としての「音響」としての「音響」ではなく、その音が鳴らされる環境との関係、さらにそれをどうにかし、聴くのか、といった「聴くこと」との関係までを含んだ問題意識もなされている。

シールド(1)「音響」の発生を発生する数値」とコンピュータを使い、大音響による演奏を行った。高音が楽器を弾く瞬間は、現在のポイントが瞬間のあたりにズレたように感じられるような瞬間に、音の本質が「瞬間」であることを認識させられる。この瞬間を聞くだけで、音の本質が瞬間に瞬間に瞬間になる。この瞬間に共通するのは音に対して聴き手が能動的な参加を求めているという点だ。



## 『05年9月14日・音響派コンサート評』

ジャズ評論家：副島輝人

14日夜、丸ビルの7Fホールで四つの音響派が集めたコンサートがあった。丸の内といえば日本の大企業の集う中枢の地で、皇居にも近い。そんな処で音響派の大掛かりなコンサートということ自体が、まず楽しい。この夜のディレクターが伊東篤宏だったというのが良かった。TPAM企画の幾つかのコンサートを観たが、四つのグループの選定と出演構成が抜群だった。

最初は一楽儀光の「ドラびでお」。ドラムとコンピューターを連結させ、スティックを振り下ろす毎に映像が変わる。つまりテープレコーダーの早送り、一時停止、巻き戻しなどの操作を、ドラミングで行っていると考えればいっただろう。一楽は音で映像を動かすことを考えたのだ。またその逆に、映像の動かし方を工夫することによってサウンドが作られる場合だってあるだろう。音楽と映像の可逆反応。二つのメディアを対峙・交流させる思い切った実験精神が見られる。スクリーンに映っているピアニストとの架空のデュオでは、互いの音に支配され、また支配する面白さ。最近、サイレント映画を上映しながら、その傍らで即興演奏するのが流行っているようだが、一楽の発想は、それを一歩踏み越えたものといえる。この夜のパフォーマンスでは、後半のドラマティックなテーマを持つものの方が、明日への可能性があるのではないかと思った。

秋山徹次とは個人的にも長い付き合いで、彼がいろいろな表現方法を持っていることは知っていたが、この夜はギター・ソロで登場した。フリージャズに影響されて音楽を始めた秋山だが、演奏の表向きにはロックあるいはロックンロールの衣装を纏っていた。基本的にはミニマル・ミュージックで、その中で幾つもの異なる顔を提示している。ミニマルがしつこく繰り返される中に、人声が入ってくる。思わず秋山の口元に眼をやったが、動いていない。そうか、倍音のメソッドだなと思う中に、人声は複数になり、コーラスのようにも聴こえて来た。つぎの曲では、同じく倍音を使ったやり方で見事にホーメイ的な効果をアピールする。また、ミニマルで二つのリズムを並行させて、その一つをゆっくりスラせて遅らせていく。最高のテクニクで、一つのサウンドの中に二つの時間が流れているのだ。僕は、秋山のギターが好きだ。

恩田晃はカセットデッキをだけを使って、音の記憶をモチーフにしたパフォーマンスを展開する。ゴーツという音に混じってキ、キ、と高音が聴かれる。それがゆっくりゆっくりとカメラのフォーカスを合わせるように音が整合されていくと、川の流れと鳥のさえずりに聴こえてくる。この場合、音が整合されたのか、私の聴覚がそのように捉えてしまったのか？ いずれにしても、私の記憶の中にある一つの風景、それは一枚の写真のように、過去が甦る。ああ、これは眼をつぶって聴く音創造だと思って、私は眼を閉じる。恩田の意図なのか、私の空想なのか。腕の裏側に次々に音による写真が提示され、私は耳の中でそれを覗いている。都市の風景、海の中で小魚の群れが大きな魚に追われて逃げまどう様子……。聴き手もまた、自由な空想、妄想の海を存分に泳がせてもらった。

伊東篤宏のオプトラム(蛍光灯による音と光のパフォーマンス)を聴き、また観るとき、いつも私は20年前のメールス・ジャズ祭で初めてクリスチャン・マークレイのターンテーブル・パフォーマンスに接した時のことを思い出す。あの頃、ターンテーブルを楽器として＜演奏＞するなどということは、誰も想像すらしていなかった。あの時の驚きと興奮は、今でも身体の中に残っている。初めてのオプトラム演奏でも同じ思いをしたものだ。マークレイも伊東も、共に美術家出身である。どこかノスタルジックな優しさを持った音は、あの幽かなジューという蛍光灯の低周波をアンプで増幅し、入力するボルトを変えると音程も変化する。そして不規則に明滅する光は観客に向けられた暴力的なアプローチ。物を見るための道具である蛍光灯が、人を刺す光りにも変身している。その横で、進藤一郎のドラマがアグレッシブに走っている。我々の大脳が攪拌され、それが私のような前衛志向者には心地よい。オプトラムは以前より音楽的になって、時にはメロディックな感じさえする。

こうしたコンセプトな超ジャズを聴く楽しみは、聴こえてくる音楽の内部のコンセプト、イメージ、メソッドを読み取ろうとすることにあり、いわば表現者と聴き手の闘い(ゲーム?)で、聴き手の唯一の武器は想像力となる。かつて日本のスーパー・ジャズドラマー富樫雅彦は「ミュージシャンの創造と、観客の想像がぶつかった時、音楽は最高のものとなる」と云った。その通り！そして私にその後を云わせてもらうなら、創造と想像は同じ貨幣の表裏なのだ。だから聴き手としては、出てきた表現からメソッドへ、メソッドからコンセプトへという回路を迎るのが最高の楽しみとなるのである。

ソーシャル・ネットワーキングサイトmixi(ミクシィ) ブログより



## 東京芸術見本市2005／インターナショナル・ショーケース2005

(事務局スタッフ)

事務局長	中根公夫
副事務局長	田村光男
副事務局長・プログラム・ディレクター	丸岡ひろみ
ディレクター [ショーケース担当]	小沢康夫
ディレクター [国際プログラム担当]	大原典子
広報	中島香葉
スタッフ [国内プログラム担当]	久保田夏実
アシスタント・プログラム・ディレクター	森原綾子
総理	養かおり
スタッフ	関 朝子

総合舞台監督・会場運営：飯田幸司（海蔵オフィス）

舞台監督：C-COM

舞台監督：山口賢一、坂本 洋

照明：関口裕二（フランス）

音響：金子伸也

受付統括：山下陽子、植崎由佳

技術協力：高井貴佐人（DANCE AND MEDIA JAPAN）

ショーケース協力：中村西、クドウヒロミ

協力：奈良岡江里、巨塚千早、黒田裕子、塚口麻里子、菊池理恵、西須沙織

アート・ディレクション：栗林和夫（クリ+グラフィック）

デザイン：クリ+グラフィック

Webスタッフ：吉田圭（クリ+グラフィック）、有藤敬之（エフ・ディ・エス）、小嶋 優（Jimanica）、大谷有生

通訳：イディオリック株式会社、川口隆夫

翻訳：アダム・プロノフスキ、近藤聡子、新井知行

旅行アレンジメント：株式会社日本旅行 片山和哉

印刷：株式会社雄連印刷 深川竜太

記録

写真撮影：宮内 勝

ショーケースビデオ撮影：DVD編集：新井知行

編集発行 東京芸術見本市事務局

発行日2005年12月